

2021年9月9日

2021年度後期の授業について

文学部・文学研究科

新型コロナウイルスの感染拡大がおさまりません。宮城県も緊急事態宣言の区域に含まれました。幸い本学では、学生の皆さんの適切な行動やワクチン接種の効果もあって著しい感染拡大は見られません。しかし、全国的には20代・30代に感染者が多く、重症化する例も多数報告されており、楽観を許しません。

このような中、10月1日から後期が始まります。感染状況がどのようになるのか、予想がつきませんが、文学部・文学研究科ではさまざまなBCPレベルを想定し、次のように授業を実施する予定です。

【参考】BCP=新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針

http://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/pressimg/news20210818_01.pdf

1. 基本方針（原則）

前期に比べて、BCPレベル2以下の場合には、対面授業を大幅に増やすことにしました。実技科目・演習科目は対面の方が学修上の成果があがり、講義科目はオンラインでも相応の成果が得られるというのが、昨年度からの経験でわかってきたことです。また、低学年ほど対面授業を多くするというのが大学の方針であり、学生の要望でもあります。一方、感染防止も必須の課題です。本学部・研究科では、教室の数と定員、時間割、各授業の受講者数・授業形態等について検討して、下記のようなのであれば、感染防止を行った上で、効果的な授業が行うことができると判断しました。

1) BCPレベル2以下の場合

①文学部で開講する学部1年次の科目は対面で実施できることとします。

②学部2年次以降の科目および大学院の科目は次のとおりとします。

実技科目（実験・実習・実技等）は対面で実施できる。

演習科目（演習・講読等）は対面で実施できる。

講義科目（概論・各論・特論等）はオンラインで実施する。

*実技科目・演習科目であっても、オンライン授業となることがあります。他方、講義科目であっても、授業効果上不可欠であれば対面実施することができます。授業担当教員の指示に従ってください。

*これまで同様、教室の定員を通常より少なくし、受講生同士の間隔を空けるなど、感染防止策を十分にとります。

*対面授業への出席に支障がある場合については、相応の理由があれば、不利が生じないように授業ごとに配慮します。

* 全学教育科目、他学部・他研究科の開講科目については、それぞれの方針で実施されます。

* 当面、行動制限が全面的に解除されること（BCPレベルが0となること）は想定していません。

2) BCPレベル3の場合

原則として、授業はオンラインになります。ただし、1年次科目、2年次の実技科目および演習科目、実技科目、大学院総合科目Ⅱのみ対面実施することができます。

(以下略)

3) BCPレベル4の場合

すべてオンライン授業となります。

2. 具体的な受講手続き

今後の予定については、別紙「後期授業受講までの流れ」に示しました。9月24日に時間割表を公開します。時間割表には、授業ごとの Classroom のクラスコードが記されていますので、それによって Classroom を見れば、授業方針や形態を知ることができます。その後の手続きについては、「後期授業受講までの流れ」をよく読んでください。なお、10月1～14日は、授業履修の「お試し期間」とし、BCPレベルにかかわらず基本的にオンラインで実施します。対面授業が始まるのは10月15日からとなります（BCPレベル2以下の場合）。学生の皆さんはそれに合わせて準備をお願いします（実験・実習・実技科目では、それより前から対面で実施されるものもあります。Classroom の指示に従ってください）。

3. その他

1) 集中講義

別途連絡します。

2) 研究室など施設の使用について

文学部・文学研究科では、研究室など施設の使用についてガイドラインを作成し、学生の皆さんに遵守してもらっています。BCPレベルが2となった場合、研究室等を使いやすくする方向で従来の同レベルのガイドラインを変更する予定です。

3) 自学習スペース

文学研究科研究棟 1 階東側の学生談話室、新講義棟のコモンスペースは、従来通りオンライン授業の受講ができる自学習スペースとします。文学部第1講義室・第2講義室も、授業が行われている時間以外は使用できます。

文学部・文学研究科開講科目 後期授業受講までの流れ（学生向け）

2021年9月9日
感染対策学務関係WG

